

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 17 日現在

機関番号：34405

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23820073

研究課題名（和文） 『新撰楽道類聚大全』の研究

研究課題名（英文） A Study of “Shinsen-Gakudōruijyū-Taizen”

研究代表者

出口 実紀 (DEGUCHI MIKI)

大阪芸術大学大学院・嘱託助手

研究者番号：00612871

研究成果の概要（和文）：

本研究は、天王寺方楽人の岡昌名（1681～1759 元昌信、改昌隆、改昌名）による楽書『新撰楽道類聚大全』（1727頃成立、全30巻）の伝本調査を行い、翻刻を進めるための基礎資料を整備するものである。所蔵が確認できた写本については可能な限り複写入手し、揃本6種と端本7種を入手した。また岡昌名の楽人としての活動について、四天王寺、禁裏、江戸における参仕状況を上演記録に基づき整理し、楽書を成立するに至った背景を探った。

研究成果の概要（英文）：

This study conducts a survey of extant copies of the music book “Shinsen-Gakudōruijyū-Taizen” (completed in around 1727, 30 volumes in total) compiled by the musician of Tennōji Temple, Oka Masana (1681-1759, successively named Masanobu, Masataka, and Masana). The study also prepares the basic data for carrying out reprints of the work. To the extent that it was possible, we acquired copies of manuscripts for which the ownership could be confirmed and secured six types of set books (copies containing all 30 volumes) and seven types of incomplete set books. Regarding the activities of Oka Masana, we summarized his attendance status in Shitennō-ji Temple, Kinri (the Imperial Palace), and Edo based on performance records and investigated the context in which the music book was completed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2012年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：新撰楽道類聚大全、岡昌名、天王寺方、楽書

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、これまで江戸時代の天王寺方、とりわけ高麗楽の伝承について研究を行ってきた。天王寺方は、三方楽所のなかでもとりわけ高麗楽（右舞）を伝承する立場にあった。また天王寺方楽家の一つである林家が、詳細かつ長期にわたって記録した上演記録を残していることもあり、これらの資料および楽譜を扱って天王寺方の伝承状況を考察した。その結果、天王寺方が江戸時代に伝承していた高麗楽は最大 21 曲であった。さらに、21 曲の中でも演奏頻度の高い曲と低い曲に分類できることが分かり、すべての曲が同じ比重で伝承されていたわけではないことを指摘した。また、上演記録に記された舞人の名前から、三方楽所のなかで右舞を伝承していた楽家とさらに楽家の系統を探った。

天王寺方における右舞の伝承楽家は、これまで林家と東儀家であるといわれてきたが、実際に伝承に携わっていたのは、林家と東儀家の本家と一部の分家であり、この両家は、天王寺方においても三方楽所の中においても中心的役割を果たしていたことを明らかにした。また、中心的役割でなかったものの、これまで右舞の伝承楽家と考えられていなかった藪家と岡家の一部の家筋に、右舞の伝承を担う人物がいるという事実が明らかとなった。以上のように上演記録や楽譜を用いて研究を進めてきたが、江戸時代の天王寺方について研究を行うには、見過ごせない重要な資料が残されている。それが、天王寺方による唯一の楽書『新撰楽道類聚大全』である。それにも関わらず、『新撰楽道類聚大全』については未だ翻刻本がなく、研究資料として扱うことが困難な状況である。

## 2. 研究の目的

本研究は、天王寺方による楽書『新撰楽道類聚大全』を用いて、江戸時代における雅楽の伝承状況を明らかにしようとするものである。江戸時代には、天王寺楽人の岡昌名（1681～1759）が、『新撰楽道類聚大全』（1727 頃成立、全 30 巻）という大部な楽書を残している。本研究では、この全 30 巻の翻刻を行い出版を目指す。全巻揃本が所蔵される静嘉堂文庫、早稲田大学図書館、東京藝術大学附属図書館、東北大学狩野文庫などの所蔵本を校合するとともに、伝本すべてについて比較、検討する。また、岡昌名は楽人でありながら、研究者としても意欲的に活動し、写本や書写した楽譜がいくつも存在する。そのため、翻刻とともに、岡昌名に関連する史料についても調査、収集を行い、『新撰楽道類聚大全』を著した背景について探る。

（1）江戸時代の楽書といえば、京都方楽家の安倍季尚（1622～1708）による『楽家録』（1690 成立、全 50 巻）がまず思い浮かぶ重要な文献である。大部であるにも関わらず、その重要性は早くから多くの人の知るところで、昭和 11 年（1936）「日本古典全集」中にて翻刻がなされており、現在雅楽に関わるすべての人が、その恩恵にあずかっているといっても過言ではない。この他に、南都方楽家の狛近真（1177～1242）著『教訓抄』（1233 成立）、狛朝葛（1249～1333）編『続教訓抄』（1322 成立）、京都方楽家の豊原統秋（1450～1524）著『體源抄』（1512 成立）をまとめて、「四大楽書」と呼んでいるが、これらはすべて翻刻されており（「日本古典全集」）、研究の基礎資料として、まずは引用されるものである。しかし、この「四大楽書」には、

天王寺方の楽書だけが含まれていない。天王寺方においても30巻に及ぶ『新撰楽道類聚大全』が存在するものの、天王寺方の資料として、また四天王寺での活動の一端を知るためにも重要であると考えられながら、未だ翻刻されず、誰もが活用できる状況にはない。天王寺方に着目した研究や江戸時代を対象とした研究では、この楽書は欠かせない資料である。それにも関わらず、『新撰楽道類聚大全』のみ翻刻本がないのは、研究書としての性格が強いこの楽書を扱うには、内容を精査し、全体を把握するために膨大な時間を要するからである。

(2) これまでの雅楽研究では、すでに翻刻されている「四大楽書」については扱われることも多かったが、本研究では、「四大楽書」と同じく大部でありながら、これまで扱われてこなかった天王寺方の楽書を取りあげる。本研究において、『新撰楽道類聚大全』の翻刻本を出版できれば、今後は「五大楽書」の一つとしてこの資料が活用され、江戸時代の雅楽研究の発展に役立てればと考える。また、翻刻がなされていない『新撰楽道類聚大全』を扱うには、所蔵される図書館での閲覧や複写が必要となり、30巻すべてを複写するには時間と研究費用が必要となる。そのため、この資料の翻刻、出版を行うことは、今後の雅楽研究において非常に有益であると考えられる。

### 3. 研究の方法

翻刻にあたり、まず揃本、端本を収集し、校合する必要がある。揃本が所蔵されているのは、静嘉堂文庫、早稲田大学図書館、東京藝術大学附属図書館、東北大学狩野文庫で、このうち、東北大学狩野文庫本については、大阪芸術大学図書館所蔵のマイクロフィルム

ムから全巻の複写をすでに入手している。そのため、この東北大学狩野文庫本を底本として、静嘉堂文庫本、早稲田大学図書館本、東京藝術大学附属図書館本の揃本を収集し、校合を行う。また、国立国会図書館、東京国立博物館、天理大学などには端本があり、校合のためにはそれらすべての伝本を入手し、比較する必要があると考える。岡昌名は、『新撰楽道類聚大全』以外にも、雅楽に関する著作をいくつか残している。『東京藝術大学創立100周年記念 貴重図書展 解題目録』[東京藝術大学附属図書館(編) 1987]によると、「岡昌名は資料の収集、編纂に熱心な人であったらしく、いくつかの南都系の史料の写本にも奥書を残している」とある。『新撰楽道類聚大全』の記述の正確な理解には、岡昌名がこの楽書を著すうえで何かしらの影響を受けたと考えられる他の文献類や著作物、楽譜類についても調査する必要がある。また、楽人として、書写した楽譜もいくつか残されているため、岡昌名が関わった写本および書写楽譜についても収集を行う。

### 4. 研究成果

(1) これまでの伝本調査により、東北大学狩野文庫、東京藝術大学附属図書館、早稲田大学図書館、静嘉堂文庫、西尾市岩瀬文庫、天理大学附属天理図書館に揃本が所蔵され、その他、国立国会図書館、東京大学附属図書館、上野学園日本音楽史研究所、穂久邇文庫、京都大学附属図書館に端本が所蔵されていることが確認できた。また今回の調査によって、『国書総目録』に記載されている機関以外でも所蔵が確認でき、新たな写本の所在を明らかにすることができた。これら所蔵が確認できた写本については、個人蔵や複写不可の場合を除き、可能な限りで複写入手している。入手した写本については、現在、翻刻の

ための校合作業を進めている。その他、『新撰楽道類聚大全』以外の昌名による著書、楽譜、写本についても調査を行ったところ、京都大学附属図書館や上野学園日本音楽史研究所に数種の資料が所蔵され、複写入手している。他にも、東京国立博物館、国立歴史民俗博物館に楽譜の所蔵が確認できたため、複写入手にとりかかる。

(2) 著者の岡昌名(1681~1759 元昌信、改昌隆、改昌名)は天王寺方楽人の一人であり、『四天王寺舞楽之記』、『禁裏東武並寺社舞楽之記』(共に京都大学附属図書館所蔵)の上演記録によって、四天王寺だけでなく、京都、江戸においても参仕していることが判明した。楽人としての活動状況を把握することは、楽書を成立するに至った背景とも深く関連すると考えられる。そこで、岡昌名が楽人としてどのような活動をしていたのかを探るため、上記の上演記録に基づき、四天王寺、京都、江戸における参仕状況を整理した。その結果、20代から30代前半までの昌名は、舞人として精力的に活動していた時期にあたり、各法会や行事での参仕に加え、舞の習得など多忙な日々を過ごしていたことが想像できる。それに対し、30代後半からの昌名は、楽人(主に笛を担当)としての参仕が中心であった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① 出口実紀、「天王寺方楽人 岡昌名の活動について」、『藝術文化研究』、大阪芸術大学大学院芸術研究科、査読有、第17号、2013、pp.57-72、

#### 6. 研究組織

#### (1) 研究代表者

出口 実紀 (DEGUCHI MIKI)  
大阪芸術大学・大学院・嘱託助手  
研究者番号：00612871

#### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

#### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：